

ブータンミュージアム通信

vol. 14

- 2 JICA北陸支部長 仁田知樹氏との対談
—— 特定非営利活動法人 幸福の国 理事長 野坂弦司
- 8 ブータンの日刊紙クエンセルの日本語訳の試み
奥村彰二
- 11 世界一貧しい大統領が日本人に聞きたいこと？
栗原哲朗
- 13 第5次ブータン友好訪問団の報告 Part 3
- 16 ブータン王国チョモラリ峰BC踏査
福井県山岳連盟 会長 牧野治生
- 19 幸せの映画上映・ハピネスコンサートへのお誘い
- 20 一杯のお茶 元JICA青年海外協力隊員 佐藤 高央
- 26 『黄色いバラの咲く幸せガーデン』での演奏
二胡奏者 小林 寛明
- 27 ブータンの小さな命を救うために活動する日本の医師
小柳 澄枝
- 28 ブータンミュージアム展示品紹介⑧ マニ車
- 30 小玉みさをさん絵手紙作品紹介 Part 6
- 31 ブータンミュージアムを運営するNPO法人 幸福の国
ついに、仮認定NPO法人へ
- 32 ブータンミュージアム活動記録
- 33 ブータンミュージアムこれからの活動予定
- 34 アジアの村を歩く⑭ 松田宗一
- 36 編集後記

対
談

Vol. XIV

JICA北陸支部長 仁田知樹氏との対談

(特活) 幸福の国 理事長

野坂 弦司

対談日 平成二十八年六月一〇日



野坂（以下 野） このたびはJICA
北陸支部長就任、おめでとうござい
ます。仁田さんとの最初の出会いは
ブータン王国の首都ティンプルーで、
2012年4月のことでした。

仁田（以下 仁） はい、当時私はJICA
ブータン事務所勤務していま
したが、野坂さんとのあの出会いを
懐かしく思い出します。その4年後
に自分が北陸支部に勤務すること
になるとは夢にも思っていない
た。

野 あのときはブータンミュージアムを
福井につくりたいという熱い想いを
胸にブータン王国を訪問し、当時の
内務文化大臣とダシヨールカルマ・
ウラ氏に会いに行きました。パロ博
物館も訪問し、すべての方々から
ブータンミュージアム設立への同意
をいただいたことを昨日のことのよ
うに思い出します。仁田さんには、
そのときの縁結びの神様の役目を果
たしていただきましたね。

仁 縁結びの神様などという大それたこ
とはしていませんが、ブータンを初

めて訪問された野坂さんが、「福井
にブータンミュージアムを」と力強
く語られたので、とてもびっくりし
たのを覚えています（笑）。こんな
にもブータンに熱い想いを寄せてい
らっしゃる日本人、旅行者とお会
いするのは初めてだったので、ブー
タンに暮らす日本人の一人としてど
ても嬉しかったです。少しでも何か
お手伝いできないかと思ったもの
です。

野 その後JICA駒ヶ根青年海外協力
隊訓練所の所長として日本へお帰り
になられました。2014年には福
井での講演も引き受けていただきま
した。テーマは「世にもユニークな
国・ブータン」でした。

仁 野坂さんから講演の依頼をいただ
き、ありがたかったです。ブータン
のGNH（国民総幸福）のことや、
王様が主導して民主化したことな
ど、ブータンのユニークな面に焦点
を当ててお話をさせていただきました
が、拙い話で失礼いたしました。
そのときに初めてブータンミュージ



アムにおじやまさせていただいたのですが、よくもまあこんなに多くの展示品を収集されたなあ、と驚くやら感心するやら。日本にいながらにしてブータンを最も身近に体感できる場所は、間違いなくこの福井だと思います。

野
ありがとうございます。ブータン

仁
ミュージアムはNPO法人ですの
で、皆様から頂いたご寄付で少しず
つ展示品の収集を行っております。
ブータンは、付き合えば付き合うほ
どどんどん好きになる不思議な国で
す。地域によって文化も違い、何度
訪問してもいつも新しい発見があり
ます。ブータンは最後の桃源郷とい
われていますが、長い間お住まいに
なつてその本当の魅力を満喫された
でしょうかね。

私はブータンに3年半ほど滞在しま
したが、住めば住むほどその不思議
な魅力に引き込まれていきました。
ブータンの魅力を語り出すときりが
ありませんが、私が一番惹かれたの
は、ブータン人の「日本人への想い」
だったように思います。あの未曾有
の大災害・東日本大震災が発生し
た直後、私の勤務するJICAブー
タン事務所には連日多くのブータン
市民が義援金を持ってきてくれまし
た。中には、一枚のよれよれのお札
を握りしめ、山あいの農村から二日
かけて峠を越えてやってきた老人も

いました。そのお札まが、日本円にして
千五百円ほどですが、ブータンの庶
民・農民にとつてはとつてもない大
金です。「昔、私の村に日本から一
人の青年青年海外協力隊員がやつ
てきて、村の発展のために一生懸命
尽くしてくれた。今、災害で苦しん
でいる日本の人たちにその恩返しが
したい。どうかこのお金を被災した
人たちのために役立ててほしい。」
とその老人。私は涙が止まりません
でした。ブータンの人たちと私たち
日本人が長年にわたつて築いてきた
固い友情の絆をしみじみと実感した
瞬間でした。その絆こそが私にとつ
てブータンの最大の魅力かも知れま
せん。

野

ブータンの人たちと日本人の絆を感
じる素晴らしいエピソードですね。
ブータンの人たちの気持ちが本当に
うれしいです。私たちはこれまでに
6回ブータン訪問団を派遣し、交流
を深めて参りました。ブータンを訪
れた際にいつも感じるのには「ゆっく
り流れている時間」です。テキパキ

と物事を進めようとしてもダメですね。逆に、黙って待っていると、いつの間にか物事がスムーズに進んでいる。不思議な国としか言いようがありません。

仁

そうですね。何かをしようとしたとき、そのペースで準備していて本当に間に合うのだろうかというライラすることもありましたが、結局間に合ってしまう。そんな不思議なところは確かにありましたね。プータンの人たちの心の中には、誰かを悲しませてはいけない、みんなが幸せにならなければいけないという想いが常にあるのではないかと思えます。その想いが、最後の最後にちゃんと辻褃を合わせてしまうことにつながつているのではないのでしょうか。忙しい現代人が見習わなければならぬところですね。去る5月の訪問では、5代国王からプータンミュージアムの来館者のためにと書籍を50冊も寄贈いただきました。とても重かったですが、その重さがまた嬉しかったです。

仁

野坂さんは、国王陛下とも強いパイプを持つておられる。スゴイことですね。野坂さんがプータンを心底愛する気持ちが国王陛下にも伝わっているのだと思います。国王陛下寄贈の貴重な書物、多くの来館者の皆さんに読んでもらえると良いですね。早速プータンミュージアムに特設コーナーを創りました。来館者のみなさんも興味深そうに手に取って見ていらっしやいます。

野

ところで、JICAは国内に15の拠点をお持ちのことですが、ODA等の海外支援だけでなく、最近では地方創生のための地域活動にも注力されているようですね。

仁

JICAは最近、「ODAを通じた地方創生への貢献」という大方針を高らかに世に打ち出しました。JICAの途上国支援事業は、当然途上国の発展のために行っているわけですが、そうした事業を通じて日本の地方に元気になつてもらおう、地方の活性化に貢献しよう、という姿勢を鮮明にしたんです。言い換えれば、

JICAのODA事業によって、「発展途上国」と「日本の地方」と「日本政府・JICA」の三者が揃って恩恵を享受するWIN-WIN-WINの関係をつくっていくというものです。私の勤務するJICA北陸支部は、15の国内拠点の一つで、福井、石川、富山の3県を担当して



います。プータンと深い関係にある福井県を担当する拠点に赴任できたことをとても幸せに思っています。

野 福井県は「幸福度日本一」という誠にありがたい勲章をいただきました。世帯当たりの所得や貯蓄が全国トップクラスです。所得と幸福についてはどう考えられますか。

仁 福井県は今やすっかり「日本一の幸福県」として知られるようになりましたね。2018年に開催される福井国体も「福井しあわせ元気国体」の名称がついていますし、県名に「福」の字が入っているのも偶然ではないでしょう。所得と幸福・・・難しい問いかけですね。幸福の度合いを測る大切な指標の一つが所得水準だと思いますが、それが全てではないと思います。「世界一貧しい大統領」として有名になり、先日来日したムヒカ前ウルグアイ大統領が、「貧しい人とは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限に欲があり、いくら持っても満足しない人のことだ。」と言っておられますが、

まさにこれは「足るを知る」という仏教思想を基盤にしたプータンのGNHの理念と方向を同じくしています。プータンのGNHやムヒカさんの存在が、幸福についてみんなで考える大きなきっかけになればいいですね。

野 幸福の源は信仰心の厚さにも影響されるように思います。プータン王国と仏教の関係について教えて下さい。

仁 プータンという国を語るときに忘れてはならないのが仏教です。プータンは、チベット仏教を国教と定めている世界で唯一の国ですが、この仏教が人々の生活の中にも政治や行政の中にも深く浸透していて、さきほど触れたように、GNHの基本理念にも仏教思想が大きく影響していると言われています。プータンの人に「あなたは幸せですか？」と尋ねると「はい、あなたが幸せなら」と答えて返ってくるという話がよく聞きました。みんなが幸せで初めて自分も幸せ、世界中が平和になって

初めて自分も平和といった考え方はプータンの多くの人たちが持つ自然の想いのようです。

野 福井県は小学生、中学生とも体力、知力、学力共に日本でトップクラスといわれています。プータンの教育の現状はいかがでしょうか。

仁 プータンにいて強く思ったことは、国の発展にとって一番大事なのは「教育」ではないかということでした。人々を幸せにするのも不幸にするのも他ならぬその人々自身ですから、国民が小さい頃から何を教わり、何を考えてきたかで国の将来が決まると言っても過言でない気がします。小中学生の体力、知力、学力が全国トップクラスの福井県が幸福度日本一なのも、その表れではないでしょうか。プータンでは、「足るを知る」をはじめとする仏教の教えを教育の中に取り入れてきていますが、最近では、学校ごとに特色を出しながら、GNHについて子供たちに考えさせるような授業も行っています。

野

子供たちが自主的に考えるための教育は、これから日本でもかなり重要視されていくでしょうね。先程、地方創生のことに触れていただきましたが、現在ブータンでは都市への人口集中が進んでおり、地方の振興のためには日本と同じように新しい政策が必要ではないでしょうか。ブータンへの支援策についてのご意見は？

仁

地方分権や地方の活性化を政策の中核に据えているブータンに対して、JICAは長年にわたって地方行政強化のプロジェクトを展開してきました。これは、行政官の能力向上を通じて地方の活性化を推進し、ひいては首都への人口集中緩和や地方中核都市の振興を目指すものですが、こうした施策で結果を出していくためには、それぞれの地域ごとにその地域ならではの「ウリ」を活かした斬新・果敢な発想が必要になってくると思います。JICAは引き続き、ブータンの地方振興支援に力を入れていくことになると思います。

野

ブータン王国から冬虫夏草^{冬虫夏草}や菓草の輸出についてアドバイスを求められています。福井県も嶺南で菓草を栽培していますが、JICAとしてのご意見は？

仁

製菓会社や商社などの日本の企業がどれほどブータンの菓草に興味を持つかということが大事かと思いますが、「幸せの国・ブータンからやってきた自然薬○○」といったブランド化などがうまくいけば、商業ベースに乗るかも知れませんね。薬事法など両国の法制度もしっかりと確認しておく必要があるでしょう。

野

ブランド化ですか。確かに、商業ベースに乗せるためには他との差別化が重要です。ブータンはその生物多様性で多くの研究分野から注目されていることだし、ブランド力がつけば国内での商品開発も進むかもしれません。これからもブータンからは目が離せませんね。今日はどうもありがとうございました。

仁

ありがとうございます。

(注) 蛾の仲間の幼虫に寄生するキノコ的一种。漢方の素材として珍重される。



ブータンの日刊紙クエンセルの日本語訳の試み

ブータンの新聞であるクエンセルは、1967年に週1回の政府官報として発刊され、その後、1992年に国王の指導により、発行機関が政府から離れた民間会社となった。10年程前から別の4つの新聞が相次いで発行されるようになったが、歴史的に果たした役割や発行部数からみて、ブータンで最も重要な新聞であることは変わらない。筆者がブータンに滞在していたのは、もう10年以上前であるが、そのときは週2回の発行で、野菜市場か、ノージン・ラム通りに面した本や文房具を売っていた雑貨店で10ヌルタムで買っていた。いずれの店でも、新聞を手にとってお金を渡すと、女性の店員は面倒くさそうに、無言で受け取っていたのを思い出す。ブータン社会の現実や変化を知るために、新聞を読まないといけないと思いつつ、出掛けて買うとなると、つつい買わずに日が過ぎてしまうことがよくあった。それに英語をあまり得意としない筆者には、クエンセルの英文はそう簡単ではなく、記事の題字を眺めて、特に興味を感じそうにない記事は、次々と読み飛ばしていた。ブータン社会にもっと溶け込んだ日々を過ごすべきであったと今になって思っているが、具体的な行動として、クエンセルをよく読んで、ブータン社会の知識を地元の人もっと共有すべきだったと深く後悔している。

日本の日刊紙のほとんどがそうであるように、最近はクエンセルもまた、インターネットのウェブサイトで記事を公開している。朝日新聞や毎日新聞などの有料サイトでは、紙面ビューアーにより、発行された紙面全体をそのまま画像としてダウンロードして、ディスプレイ上で表示されるので、紙面上のすべての記事を、紙面と同じ形式で読むことができる。クエンセルのオンラインサイトでは、紙面ビューアー表示はできないので、紙面のすべての記事は読むことができないが、記者が書いたブータン国内の通常記事は、ほとんど表示されていると考えられる。

これまでは、クエンセル・オンラインのホームページに入って、記事を時々読んでいたが、昨年の12月から、クエンセルの記事の中から、ブータンを知る上で大切で、興味を持てるものと考えられるものを適当に選んで、日本語に翻訳し、それをブータンミュージアムのホームページに掲載することを始めた。クエンセルの記事の翻訳は、以前に、日本ブータン友好協会のホームページでも掲載していたが、現在もそれらしいリンクは表示されているが、一般には公開しないのか、最近の記事は出てこない。

翻訳をやり始めてほんの数日間は、毎日、1記事ぐらいのペースで進めようと思ったが、英文の読解力に乏しい筆者にとって、それはとても無理であることをやり始めてすぐに思い知らされた。一つの記事はやや長短はあるが、大体英語の1000ワードぐらいで、普通の文字サイズでA4用紙に印刷すると、2から3ページの長さである。日本語の翻訳文を校正し終わると、ブータンミュージアム・ウェブサイトのサーバーにログインして、新たな翻訳文が正常に表示されるように、一連のサーバ上の設定変更を行う。

半年ほど翻訳を続けてみて、クエンセル社に対する苦情とも言える、英文記事に対する感想もっている。当たり前のことながら、クエンセルはブータンの人が読むことを前提に書かれている。クエンセルを読んでいると、わからない用語が頻繁に現れ、その都度、ブータンについて何も解つ

ていないあと痛感させられる。一方で、ブータンについて精通していなくても、もう少しわかり易い書き方をしてくれないのかと、無理な注文と思いながら考えてしまうことがしばしばある。

ブータンの公的な組織名や機関名を日本語で書こうとすると、日本語の文献での使用例が見つけれずに困ってしまうことがよくある。さらに、ブータン人はアクロニム（頭字語：NHK や UN のように単語の頭文字を連ねて作る名前の省略形）を使うのが好きである。ブータン政府から公開される報告書などでは、最初のところに Acronyms という表題で、その文献で使われている略語の一覧を載せているものが時々見られる。通常、論文や報告書でこの種の略語を使うとき、それがあまり自明なものでなければ、最初だけフルネームで書き、その後でその用語が現れる際には、省略語を使うというのが普通の作法であろう。クエンセルではたいてい最初から省略語が使われているので、それが何を意味するか判断できないことがある。いろいろ調べて、何とか省略形でないものと名前の表記を見出すことが多いが、余計な時間を費してあまり気持ちよくない。

以前、シェムガン・ゾンカクを中心にした地域の少なくとも村のすべてと立体的地形表示を組み合わせた地図を GIS（地理情報システム）を使って描こうとした。村の位置と名前は、手持ちの 1990 年代にプリントされたと思われる大型の地図から読み取って、新たな地図にプロットした。しかし、出来上がった地名が、町や比較的大きな村を除いてその多くが、現在ブータンのウェブサイトなどから確認できる名前とは著しく違っていることに驚かされた。もっとも、対象としていた地域が以前は定住社会でなかったことや、現地語としてケンカというゾンカクとは別の言語が使われていたことが、多くの名前が別の名前と呼ばれるようになった理由であるようであった。記事の中の地名が普段使っている地図上で見つからないと不安な気持ちになる。クエンセルでは、記事に現れる地名の位置を、地図で示すことは決してない、と言わざるを得ない。

ブータンは、国民議会の最初の総選挙を行い、憲法を発布した 2008 年頃から、ブータン地方行政法令 2009 を発効させるなどして、行政区分は、ゾンカク、ドゥンカク、ゲオク、チオク、トムデ（Thromde）などに階層化して、かなりの変更を行った。首都ティンブーも行政区分を表わすときは、ティンブー・トムデと書かれるようになった。日本の旅行案内書では、まだティンブー市内、ティンブー市街地という使われ方をしており、ティンブー市という書き方はいいのか悪いのか迷ってしまう。

たとえば、クエンセルの今月の記事で、「国王がジョモツァンカのダワタン村をたずねた」と書かれている。ダワタンは、その下に村と書いてあるので、村名であることはわかるが、ジョモツァンカは、何の行政区分の名前かわからない。いろいろ調べてみて、ゲオク名であると分かるまでかなり時間がかかった。地名の書き方をわかりやすくして欲しい、と感じる。

翻訳に限らず、ブータンのことを書こうとするとき、地名、人名、機関名、宗教や伝統文化などに使われる特殊用語などは、カタカナ表記をせざるを得ない。ブータンの地名・人名のカタカナ表記の難しさについては、今枝由郎著『ブータン、新装増補版』（大東出版社、2013 年）の最初のところにも詳しく書かれている。言い訳を述べたようになってしまったが、クエンセルでは、有名人でもない人の名前もたくさん出てくるので、筆者がいつも正しいカタカナ表記をしているとはとても思えない。

ここまで、クエンセルの翻訳を通じて感じた愚痴を書き綴ったような気がするが、この小文を書き始めたときの意図は、これまで特に興味を感じ、また注目すべき重要なクエンセルの記事を振

り返りたいということなので、今回は2つの記事について少し書いてみたい。

今年の1月20日のニュース記事では、今年ブータンと日本の二国間の友好関係30周年を記念して、これまで日本からブータンへの旅行者に強制的に科してきた1日200米ドルの最低パッケージ料金（ターリフ）を無くし、ブータン国内ホテル料金の50%ディスカウント、ブータンに到着する際の航空運賃のディスカウント、その他のブータン国内サービスの割引も柔軟に対応するという、ブータン政府の発表を報じた。この特別サービスの期間は今年の6～8月の3ヶ月間である。この提案の発表は、ティンブーでは外務大臣、東京では、そのとき日本に来ていた経済大臣による同時発表であった。しかし、この特別企画をすることは政府独断で決めたことだと、旅行代理店など民間の旅行業を営む人たちは、政府の取った政策を猛烈に批判し、抗議した。この政府が決めたことに対する旅行業者の厳しい批判と抗議は、5月11日にも報じられた。この割引提供は、日本からの観光客の一時的な増加は見込めても、その期間中でも収入は減少し、その後長期間に渡って日本人観光客からの収益は減るというのが、業者の見解である。観光業者連盟が確信的に批判するのは、前例があったからであった。2014年に同じような特別企画をタイに対して行い、結果的に大打撃を食らったと業者たちは主張している。観光業はブータンが外貨を稼ぐ産業として、水力発電の次に重要視されており、観光業についての記事はしばしば掲載される。

ブータンへの年間国際的観光客（ロイヤルティ：ブータン政府への固定納付金を払う義務のある国（インド、バングラデシュ、モルジブ以外の外国）からの観光客）の数は、2015年度、中国がトップで約9000人、2位がアメリカの約6000人で、日本は7位になっている。日本は、2012年の約7000名をピークに、その後年毎に減り続け、2014年は2702人と報告され、2015年は、さらに減少しているようである。しかし、日本人観光客はガイドをつけたり、いろいろと金払いがよいことなどの理由で、旅行業者は日本人に大きな期待を寄せており、日本人観光客に対する政府の扱いにとても神経質になっている。

6月7日には、王立ブータン大学傘下の9つのカレッジの卒業生を一同に集めた卒業集会（Convocation）が行われ、国王の演説の全内容が、翌日のクエンセルのトップ記事として公開された。これまでも国王のスピーチは非常に上手いと思っていたが、ブータン中のカレッジの卒業生に贈る言葉として、非常に感動的なものであった。この種の集会での国の指導者としての発言となると、その国の現状、あるいは将来について、内容の客観的公正さの追求は二の次にして、聴く卒業生たちの今後の発展と社会貢献への期待などを話すことになる。国王は現在のブータンの現実が多くの厳しい問題を抱えていることをかなり詳細に述べている。経済問題、環境問題、急速に発展したために生じた多くの社会の歪みなどに言及するとともに、国王が今深く心配していることは政治の汚職であると言っている。国王が「政治の汚職」という言葉を発言すること自体、やや驚かされる。「ブータンでは多くの問題が山積しているが、私は絶望しているのではなく、ブータンの発展に好都合な状況がいくつかあり、その一つがここに有能な若者が大勢いることなので、我々の明るい未来に確信をもっている。これから国王といっしょに頑張ろう」という呼びかけで、スピーチを締めくくっている。

（今後、同じ表題で小文を書く機会が与えられれば、クエンセルの記事の紹介のみを書こうと思う。）

（（特活）幸福の国 副理事長 奥村彰二）

世界一貧しい大統領が日本人に問いたいこと？

(特活) 幸福の国 理事兼事務局長 栗原 哲朗

世界一貧しい大統領と言われる、前ウルグアイ大統領（第40代）、ホセ・ムヒカ氏（任期は2015年3月までの5年間）、が今年4月に初来日した。彼は、2012年、リオデジャネイロで開催された国連持続可能な開発会議でのスピーチで一躍世界の脚光を浴び、ノーベル平和賞候補にもなった。大統領官邸には住まず、公用車には乗らずに古びた自家用車を自分で運転。飛行機で移動する際はエコノミークラス。また、給料の多くを寄附し、今でも必要最小限の資産しか持たない。それは、大統領が一握りの金持ちと同じ生活をしていたら、国内で何が起きているのか分からなくなるという思いからだ。質素な生活に徹し、国民と同じ目線に立ち、国民の幸せを第一に考えて画期的な国政のかじ取りをした。先のスピーチの中で彼は、「貧乏とは、少ししか持っていないことでなく、限りなく多くを必要とし、もっともっとと欲しがることである」と言った。また、「現代社会は、飽くことなく物を手に入れ、物を作り続けることで動いている。そして、地球環境の危機問題は私たちの生き方の危機だ」と。さて、今回初来日した彼は日本人にいろいろと質問したいことがあるそうだ。課題先進国である日本だからこそ、日本人に対し、「人類はどこへ向かい、世界の将来はどこへ向かおうとしているのか。どのような夢を見たいかを今考えなければ、将来、私たち人類に明るい未来はやってこないのではないか」と。また、「多くの矛盾にはらんだ時代に生きている私たちは果たして幸せに生きているのか」と。

ところで、思うに、世界トップクラスの経済大国であり、米国カリフォルニア州よりも小さい、かくもコンパクトな小国家に住むわたしたちの多くは、世界に類を見ない物の豊かさに囲まれ、世界最高レベルの快適で利便性の高い生活を享受している。オール電化の居住環境に暮らし、コンビニやスーパーなどに行けばあらゆるものが容易に手に入る。上下水道も整い、治安もいい。にもかかわらずだ。現代社会は、所得格差をはじめ、育児・介護の問題、子供や高齢者の貧困問題、非情な殺人、いじめ・虐待、自殺など、ますます増加する深刻な社会問題に直面している。こうした状況を目の当たりにすると、果たして日本人の幸福度はどうなんだろうと疑問を抱くのは、おそらく私だけではないだろう。

先のムヒカ氏はこうも言っている。「私たちは発展するために生まれてきたのではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです。人生はあっという間だ。命よ

りも高価なものはありません」と。また、こうも言う。「消費が社会のモーターになっている世界では、私たちは消費をひたすら早く、多くしなくてはなりません・・・私たちは間違いなく、無限の消費と発展を求める社会を作ってきたのです・・・物を手に入れるのに必要なものはお金ではなく、それを稼ぐためにあなたが費やした貴重な時間なのです」と。つまり、私たちは貴重な人生を犠牲にして、必要以上のものを欲し、手に入れようとしているのではないかということだ。ひとつ例をあげると、狭い日本にあって、より早く便利な交通手段として、空港も欲しい、高速道路も欲しい、新幹線そして在来線特急も欲しい、さらには、リニア新幹線まで欲しい、というのは果たしてどうなのだろう。赤字の空港や鉄道などの問題もあるのだ。ムヒカ氏は、また、近未来に対して次のような心配もしている。つまり、近年、技術大国日本を先頭に、ロボット工学が目覚ましく発展し、今後いろんな分野でますますロボットが進出して来るだろう。それに伴い、いろんな変革が起こるだろう。その時、それが本当に人間に幸福をもたらすようなものになるよう、私たちは自分の頭でしっかり考えておく必要があると・・・

拙稿を締めくくるに当たり、ムヒカ氏のことばをさらにいくつか紹介しておきたい。「物であふれることが自由なのではなく、時間であふれることこそ自由なのだ」、また、「余裕のある人には弱者を助ける義務がある。貧しい生活をしている人々の生活が改善されれば、我々の生活ももっと良くなる」、「人生はもらうだけではだめだ。まずは自分の何かをあげること。どんなに困難な状態でも、必ず自分より悲惨な状態の人に何かをあげられる。」、また、こうも断じた。「お金があまりに好きな人たちは、政治の世界から出て行ってもらわなければならない」と・・・



(参考文献)

- ・中村竜太郎取材・構成
『文芸春秋6月号 特集 強欲資本主義と決別せよ 日本人への警告 世界一貧しい大統領ホセ・ムヒカ』
(文芸春秋)
- ・佐藤美由紀著『世界でもっとも貧しい大統領 ホセ・ムヒカの言葉』(双葉社)
- ・くさばよしみ編『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』(汐文社)
『世界でいちばん貧しい大統領からきみへ』(汐文社)
- ・アンドレス・ダンサ、エルネスト・トゥルボヴィッツ共著『ホセ・ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領』
(角川文庫)

第5次 ブータン友好訪問団の報告

(GNH国際会議参加チーム)

Part 3
最終回

平成27年10月30日～11月8日

11月5日(木)
ブムタン ↓ パロ

天候不順のため、飛行機の到着なく丸
1日ジャカル・ブムタンのホテル、ワン
デイチョリンで待機。前日トレッキング
に行ったフランス人チームの1人が、私
達の通り過ぎた川のような湖に転落。そ
れを助けようと飛び込んだガイドともど
も2人が死亡とのニュースが入り驚く。
私達と別行動中の牧野チーム(ガイドは
前回と同じサンゲ君)のことが心配で、
度々ガイドに携帯で無事を確認させる。
午後4時ティンプーで会う約束のツェリ
ン・トブゲイ首相とのアポは、飛行機の
遅れでキャンセル。テレビで国会で活躍
している経済大臣ノルブ・ワンチュク(B
Mへ同年3月来館)の教育に関する話を
聞き、それを聞いている首相の顔も映り、
残念至極。8時の出発予定が午後3時過

ぎとなり、アポ実行不能、カルマ・ウラ
夫人チミさんへ再三連絡を取り謝る。ツ
アーで死んだフランス人の遺体とそれを
守る夫人、ツアーリーダー、政府役人と
同じ機でパロへ戻る。整列して遺体を見
送るフランス人ツアー客達(残りの10人
程はツアー継続)の姿に涙する。異国の



ブータン中央 ジャカルの街の様子

地で亡くなった旅人と同じコースを通った私達も他人事とは思えず感極まる。時間待ちの間、ホテルでガイドのドルジ君のiPadでgenjapanを開く。YouTubeからの方が入り易い。そこで経済大臣の訪問時の映像を皆で観る。その鮮明さと臨場感に全員が驚く。しばしBMのことで話



GNH国際会議会場

題沸騰。つくづく世界は一つとの実感。前日訪問したウラ小学校の1年、2年、3年生の3クラスの子供達（消しゴムとルーペを進呈）の目の輝きと日本への興味の強さを思い、深い縁を改めて感じた。また、genjapanのメンバー達への連帯感に胸を熱くする。世界の人々が観てくれていることに感謝。初志貫徹を自分に誓った瞬間である。夕方パロに入り、前回と同じホテルに投宿。今回の2泊する予定の部屋は前より立派で驚く。パロ市内も全国と同様にこの年11月11日から13日に行われる第4代国王ジグメ・センゲ・ワンチュクの祝賀準備で忙しい。パロ市内はゾンで行われているGNH国際会議（約1400名参加）でも賑わっている。夕食中に盛り上がり、来年6月に東ブータンで行われるニマルン・ツェチュのビデオを観て再訪を5人で約す。ビデオを送ってくれるようドル



タシヨー カルマ・ウラ氏と

ジ・ナルブ君に依頼。

11月6日（金）

GNH国際会議 会場 パロゾン内約
1400名 351名登壇。

全参加者はカルマ・ウラの言によれば、

1400名、外国より58ヶ国。国内の外国人の国籍10ヶ国参加。会場2ヶ所のテント、イス席。テントの中に松葉を敷き詰め椅子がおかれ、立ち見が出る程盛況。高校生達も聴きに来ており、ブータン全国を上げての大イベント。カルマ・ウラは主催者としての威厳を



2015年11月6日GNH国際会議の様子

保ち、広場の中央に2人の従者を従えて、世界各地の人々と歓談。夜ホテルでトレッキングチームとブータン最後の夜を地ビールと地ワインで乾杯。健康で無事に全員が帰国できることを感謝。



2015年11月6日GNH国際会議の様子

11月7日(土)

いよいよ帰国の途につく日だ。予定通り、バンコクへ。空港での乗り換えに8時間待ちとなり、みなそれぞれマッサージにかかったり、車座になって話し込んだり、ウトウトしたりと自由に過ごす。

長旅の疲れからか眠ってしまった。今回は誠に有意義な旅となった。



ブータンの国樹 イトスギ



風にそよぐルンタの下を歩く

ブータン王国チョモラリ峰BC踏査

(福井県山岳連盟創立60周年及び「山の日」祝日制定記念)

福井県山岳連盟 会長 牧野 治生

第2章

巡り逢わせの

ヒマラヤブータン王国訪問

西のシッキムと東のアッサムに挟まれたヒマラヤの王国、ブータン。その北には標高6000m以上の峰を16座有するブータン・ヒマラヤの山々が連なっています。チョモラリ峰7315mは「女神の神聖な山」を意味し、信仰の対象とされてきました。シッキムを経て、インドとチベットを結ぶ、かつての街道筋の最終キャンプ地(4080m)から秀麗な山容を眺め、さらに上部の氷河湖(4380m)を踏査しました。2015年版「地球の歩き方」などは最新版かと思いきや、トレッキングに訪れる人が少ないせいか情報が古い箇所が多く、計画の時点でメンバーといろいろ話し合い、できるだけ最新の状況をインターネット上の紀行文や報告、写真、現地を実際足を踏み入れた方々の体験談などを参考にしての実行となりました。

【2015 ブータンチョモラリ BC 踏査・概要】

- 10月30日(金) 夕方 福井(マイクロバス) ⇒ 22時 名古屋セントレア空港
10月31日(土) セントレア空港 0時30分発 タイ航空⇒バンコク 4時30分着 機内泊
バンコック朝発 ドゥルックエア航空⇒インド・コルコッタ経由、
ブータン・パロ国際空港 11時30分着 パロ⇒ティンブー車移動
夕食会 福井県のタベ(福井県出身者、JICA 関係者・NPO などと交流)
ティンブーH泊
- 11月 1日(日) 朝食後ティンブー⇒パロ移動後タクツァン僧院ハイク(3000m 高度順化)
パロH泊
- 11月 2日(月) 7時パロ発(車1h30m) ⇒ 9時30分シャナ(2960m) Trekking 開始⇒
タンタンカ(3520m) シャナ〜タンタンカは緩やかな登り 7hの歩き
タンタンカテント泊
- 11月 3日(火) タンタンカ(歩き5h) ⇒ シャンゴタン(4080m) シャンゴタンテント泊
11月 4日(水) シャンゴタン チョモラリBC周辺散策Trekking シャンゴタンテント泊
11月 5日(木) シャンゴタン(歩き6h) ⇒ ツェママルポ ツェママルポテント泊
11月 6日(金) ツェママルポ⇒シャナ(車) ⇒パロへ移動 夕方にはホテル着
カルチャーグループと合流 パロH泊
- 11月 7日(土) パロ空港 11時10分発・コルコッタ経由⇒バンコク 16時20分着
11月 8日(日) バンコク 0時5分発TG-644⇒名古屋セントレア空港 8時着 機内泊
名古屋セントレア空港⇒9時発 福井へマイクロバスで移動



遠くに山脈を見ながら谷合を歩く



1日目テント内での夕食



1日目川沿いを歩く



放牧されたヤクの群れに出会う



ガイド、コック、スタッフ、馬方、我々5名 西シッキム無名峰を後ろに

今回、福井市に在る、ブータンミュージアムが派遣する第5次ブータン訪問団のメンバーとして、国際GNH会議参加メンバー4名と 私たちヒマラヤ・チヨモラリ踏査隊5名、計9名で訪問し、トレッキングの一行は、現地のガイド、コック、馬方、スタッフ合わせて7名、荷を運ぶ馬13頭、そして我々5名という大世帯の旅でした。

大自然の懐に抱かれたブータン王国の大部分が国立公園のなかにあり、自然環境に手を加える事もなく、地元民といえども厳しく制限されている。私たちのルートは遊牧民の生活道路であり、馬やヤクの交易の為に長い年月使われてきた街道で、もう一度歴史を振り返り、「足るを知る」とは何か、豊かさとは何かを問う旅でした。ブータン王国の皆様、ご協力有難うございました。チベットからのシッキム交易路は人々の笑顔と祈りの道でした。

(筆者は左から3人目)

今年度のブータンミュージアム目玉事業

幸せの映画上映について

きっと、あなたに幸せの風が吹く！

ブータンミュージアムでは、現在以下の2つの映画を自主上映しています。
いずれも各国をロケしたドキュメンタリー映画です。

「ハッピー ～幸せを探すあなたへ～」(約76分) <日本語吹き替え版で上映>

この映画は、幸せになるために一人ひとりがどう生きたいかを考えさせてくれます。

「幸せの経済学」(約68分) <英語音声で、日本語字幕のものを上映>

この映画は、私たちが幸せに暮らすための経済社会のありようについて考えさせてくれます。

日本は世界トップクラスの物質的豊かさと便利さを享受しつつも、昨今、いろいろな課題に直面しています。こうした課題を解決し、真に豊かで幸福な社会を実現するためのヒントが多く含まれている映画だと思えます。今年度の目玉事業として、以下の日程で毎月上映する予定でおりますので、一人でも多くの方々にご覧いただきたいと思えます。

上映スケジュール

(9月以降も毎月第1、第3日曜日に上映予定)

【8月は7日・21日】 10:00～ ハッピー 13:30～ 幸せの経済学

《上映場所》 ブータンミュージアム ホール(2F)

《定員》 各回 約30名

《申し込み》 定員内で当日受付あり(事前予約もできます)

《料金》 無料(ただし、1人でも多くの方にご覧いただくため、任意でカンパにご協力いただければ幸いです。)

《その他》 駐車場がありませんのでご了承願います。近隣のコインPなどをご利用下さい。

ハピネスコンサートへのお誘い

～踊って、歌って、聴いて、みんな笑顔に～

毎月第1土曜日【(8月6日はお休み)、9月3日(発表会)、10月1日、11月5日、
12月3日、1月7日、2月4日、3月4日】

第1部

12:30～(60分)

フラダンス、太極拳などの練習

第2部

13:45～(90分程度)

みんなで歌おう歌声広場

ミュージケーション音安心栖 オアシス プロスピュートによる演奏

一杯のお茶



プロフィール

名前：佐藤 高央

元JICA青年海外協力隊員。

2010年～2012年まで、南米のボリビアで野菜栽培の技術支援で活躍。帰国後も、海外からの研修生を受け入れている福井の農園で働きながら、国際協力を続けている。

元JICA 青年海外協力隊員 佐藤 高央

部屋の外から聞こえる、スペイン語が耳障りだった。

毎日、言葉がわからないなりに、なんとか理解しようとするのだが、全くわからない。圧倒的な語彙力のなさとしスニング力のなさだ。まだ、任地に派遣されて3ヶ月しかたっていないのだからしようがないと言えるでしょうがないのだが。全く何を話しているかわからない会話の中にずっといるのは苦痛である。パーティーに参加してはいるものの、話す相手がおらず、一人ポツンと終わるのを待っているのがずっと続いている状態だ。人の輪の中にいるのに、自分はこの必要とされていないと感じるのだ。仕事のほうも上手くいかない、というよりも仕事がないのだ。派遣当初から、一緒に仕事をするはずのカウンターパートナーに「君はここに何しに来たのかい」と言われたぐらいだ。協力隊員として呼ばれたはずなのに、派遣先には私の居場所なんて最初からなかったのだ。自分はこんな日本の裏側に来て何をしているのだろうか。もっと、色んな提案や、野菜の栽培方



ジャガイモ畑の作業風景

法を教えたりして、現地の人の為になる活動をしたと思っていますのに、思い通りにいかない。そんな虚しさが徐々に蓄積していった。そして、その虚しさから憤りへ、そして、その矛先は現地の人々へと向いていったのだ。

もう喋りたくない。スペイン語も聞きたくない。私の派遣先は小さな村である。外国人が珍しいのだ。ご飯を食べていると、あの日本人、今日はあの店でご飯を食べてるぜ。今、みかん買ったぜという目で見てくる。おい、その少年、変な生き物がいるっていう目で俺をジロジロ見るな。そんな現地の人々の視線や理解できない会話の中に居続ける事が次第に嫌になり、必要以上に外に出る事がなくなってきた。買い物も食事をしに外へ行くのも億劫となってしまうのだ。そして、大した食事をとらぬまま、数日が過ぎ、とうとう身体を壊してしまったのだ。

季節は冬を迎えていた。3800mを越す、高地の上にある小さな村には、連日強い風が吹きつけていた。部屋には、建物の構造上、日の光が入らない。そしてろくな暖房設備もないので、常に口から出る息は白く、何



月に2度行われる、村の市場の写真

重にも重ねた毛布にくるまり、体が治るまでじっとしていた。眠る事ができない。標高が高いため、酸素が日本の平地より30%くらい少ないからだ。だから、考えることしかできなかった。

自分はこの国ではやっぱりよそ者でしかないのだろう。言葉も違う、食べ物も違う、顔立ちも肌の色も違う。そして、友達も居なければ、一緒に仕事をする人もいない。自分の話を聴いてくれる人もいないし、心配してくれる人もいない。やっぱり、外国人というものは異質な存在、珍しいだけの存在でしかないのだろう。奇異な目で見てくるだけだ。弱った胃袋に食欲をそそるような、お粥やうどんなんてない。あるのは、ジャンクフードだけだ。冷えきった身体を骨の芯まで温めてくれるお風呂なんてない。あるのは、突然、お湯から水に変わる、恐怖のシャワールームだけ。体重も44kgまで落ちてしまった。もうダメだ、耐えられない。お腹すいたよ、寒いよ、自分の居場所がないって辛いよ。

そんな負の思考に陥っている時、ドアを叩く音がしたのだ。強く、そして短く響くその音に扉を開けると、そこには大家のカリークストがいたのだ。小柄で60歳はゆうに越しているのに、歳のわりに若々しく見える。長年農



大家カリークストとのツーショット

業をして鍛えていたからだろう。そして、この地域の文化であろう、ハットをオシャレにかぶりこなしている姿がよりカリークストを若々しく見せていた。

「Takao, ぶつした、部屋からでてこないから心配だったんだ。」

大家のカリークストとは家こそ違うが、外にある洗濯場やトイレに行くときには必ず顔を合わせている。だが、私が全く部屋から出てこないのを心配して様子を見に来てくれたのだ。そして、病気になって寝ていると伝えるとき、ちょっと待っていると引返していったのだった。そして数分後。彼は熱々の緑茶を持って来てくれたのだ。コカの葉を煎じたコカ茶というお茶である。この地域では具合が悪い時にはコカ茶を飲むと体にいとされて、僕に持って来てくれたのだった。お茶を運んできてくれたカリークストが帰ると、そのコカ茶を味わうように飲んだのだった。予想に反して、そのお茶は甘かった。砂糖が入っているのだろう。緑茶のような苦味を期待していたぶん、砂糖がタップリと入ったこのお茶に一瞬、驚いたが、食道を通り、胃袋に到着する頃には冷えきった心体に沁みわたっていた。異国の人はやっぱり違うのだ。生きてきた環境が違うから、宗教が違うから、ものの考え方も。だから、分かり合える事なんて容易には出来



任地の全体写真

ないのだろう。何もかも違う。だけど、このカリークストが運んできてくれたお茶には思いやりがあった。彼が僕の事を心配して淹れてきてくれた。違うものが多すぎて、どうしたらいいかわからない事ばかりだけど、人を思いやる気持ち、それは日本人であろうが、ポリビア人であろうが同じなのだ。そして、人は誰かからの思いやりを感じたとき、居場所がなくて辛かった、そんな思いも霧散してしまうぐらい喜びに満ちてくるのだろう。

お茶を飲みながら、涙が枯れる事はなかった。

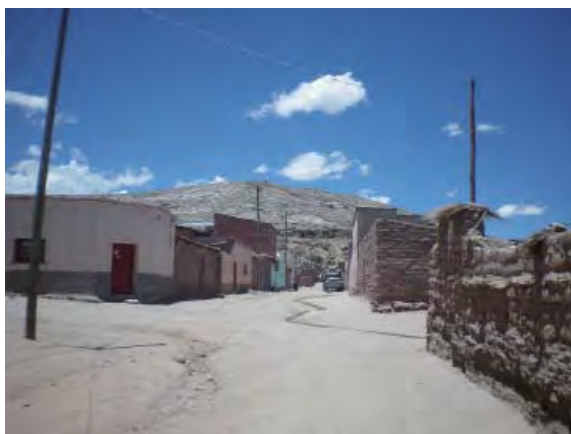
あと数ヶ月で帰国である。

村の食堂では、ご飯を食べ終わった日本人と村人とのチェスの真剣勝負が行われている。将棋で鍛えた腕で連戦連勝中である。村の中央広場に行けば知らぬ者はいない、誰かしら声をかけられる。

「今度、うちのジャガイモ畑に来いよ」

「うちのパーティーに来て日本の歌、歌っておくれ」

子供がこちらを見ている。あれは僕に興味があるのだな。よし話しかけに行こう。



任地の村の中の写真

私は2年間、青年海外協力隊としてボリビアに派遣された。野菜栽培指導という職種で、七転八倒の日々を過ごした。その中で、カリークストのたった一杯のお茶に救われた。心も体も辛くて辛くて仕方なかったのに、このお茶から伝わる思いやりに救われたのだ。そして、その後の僕に、日本人、ボリビア人という垣根を越えた、人と人とのつながりを与えてくれたのもこのお茶であった。今回、ブータンミュージアムから真の幸福とは何かというテーマを頂いて、正直、戸惑いを受けた。人生の命題とも言うべきテーマだからだ。しかし、幸福について考える機会を頂き、私なりに辿りついたのは、この一杯のお茶から感じる人からの暖かい思いであったこと、そして、涙を流すぐらいの気持ちにさせてくれる、気づきを与えてくれた事だろう。1年365日、日々辛い事や、不満や寂しさというものが自分のまわりに渦巻いているのかもしれない。しかし、そんな毎日の中で、喜びや感動を感じさせてくれる気づきがある事が幸せではないか。いや、辛い苦しみがあるからこそ、幸せになれる気づきを与えてくれると考えるのであれば、実はどんな日であろうと、毎日が幸せなのではないだろうか。それが私の思う真の幸福である。

二胡奏者 小林 寛明

(ブータンミュージアムでブータンの楽器『ダムニエン』を演奏して下さる方です)

東京 銀座のローズガーデンで開催された 『黄色いバラの咲く幸せガーデン』での演奏

ファンケル化粧品といえば、色気のない男の私でも知っている自然派化粧品の代表的メーカーかと思います。

化粧品を通じて「幸せ」を提供する同ブランドの旗艦店、銀座のファンケルスクエアで恒例となっているイベント、「ローズガーデン」。

見事！という他ない花々の集う姿。誰しもが、少しばかり時間の流れを忘れてしまう空間でした。その見事な空間で、日本・ブータン外交関係樹立30周年記念行事の一環として認定されたイベントが、2016年5月6日から13日まで開催されました。その7日に「幸せのミニコンサート」として、私がブータンの楽器を演奏しました。バラは、ブータン王国4代国王がとてもお好きな花の一つだそうです。

ブータンの写真や音楽、暮らしぶりも紹介され、知っているようで知らないブータンについての発見も楽しめました。

ここで提供されていたものは、「ちょっといい気分」になることそのもの。

花、音楽、そしてスタッフの柔らかな心遣いが醸し出すゆったりとした雰囲気。

老若男女、幅広い来場者の会場を出る時の笑顔が、その空間の優しさを表していました。

物ではない価値を心に届ける。とてもブータン的な催しでした。



ブータンの小さな命を救うために活動する日本の医師

ブータン王国の平均寿命は、2012年の調べで約68歳です。この結果は、ブータンの人達が長生きではないということではなく、乳幼児の死亡率が高いことも影響しています。厳しい生活環境や小児科医の不足、若くして出産をする等いくつかの原因があり幼い命が失われるのです。最近乳幼児の死亡数が減少傾向にあるようです。

以前、東京の小児科医の男性が奥様とブータンミュージアムにいらっしゃったことがあります。ブータン王国には、福井医科大学を卒業し、長く小児科医をされている西澤和子（よりこ）医師がいらっしゃいますが、その男性は自費で年に2回ほどブータン王国を訪れ、超多忙な西澤医師のお手伝いをされているそうです。また、先の理由等により、数が少なく、遠い病院へ運ばれる救急車の中で失われる小さな命を一人でも多く救いたいという思いで、同乗する看護師の育成にも努めておられるそうです。

ご夫婦で福井にご旅行にいらしたとき、たまたまミュージアムの看板をご覧になり来館されました。ブータンのことをお二人でいろいろとお話しされていたので、つついとお声掛けをさせていただき、お話を伺う中で先ほどのようなお話をさせていただきました。「自費ですから、残念ながら年に1、2度しか行けません。」と苦笑されていました。ちなみに、奥様は一度もブータン王国に行ったことはないそうです（笑）。

世の中には、ご自分の使命を感じ、人知れず活動をされていらっしゃる方が、もっといらっしゃるに違いないと思いました。

ブータンミュージアムには、様々なお客様がご来館くださいます。そのお一人お一人が、私には人生の糧となる大切な出会いです。

↓

（ブータンミュージアム ボランティアスタッフ 小柳 澄枝）

ブータンミュージアム 展示品紹介⑧

ぐるま マニ車



写真 1

ブータン王国で、一番多くの国民に信仰されている宗教はチベット仏教である。ブータンでは日本の「南無阿弥陀仏」のような念仏として「オーム・マニ・ペーメー・フーム」という真言を用いるが、このフレーズのなかの「マニ」は一般名詞化され、「念仏・祈願」の代名詞としても使われるようになった。マニ車とは「念仏の車」の意味である。（この場合の「車」は軸の周りを回転するようにした輪状のものを意味する）

マニ車は様々な経典を納めた円筒のことで、大きさは様々だが（写真1）、個

人が所有するものは手持ちサイズ(写真2)で、車の部分が金属製、柄の部分が木製のものが多い。車の部分には紐か鎖でおもりが付けられ、僅かな力で回し続けられるように工夫されている。少し大きめのものはゾンや寺院の壁に埋め込んであり(写真3)、さらに大きなものになると人の背丈を超える大筒の場合もある



写真2



写真3

(写真4)。変わり種としては、水車式で常に回りつづけるものや、灯明の炎による上昇気流を使って回す工夫をされているものもある。このマニ車を回す行為は、中に納められている経典を唱えることと同じと考えられており、経を読むことが功德を積むこととされているブータンでは、字が読めない人でも功德を

積むことができるとして日常的に行われている。ブータン人は輪廻転生を信じ、功德を積むことで今世、そして来世の自分の境遇を少しでもより良いものにできると考えている。マニを唱えながらマニ車を回す人達は、近代化が進む現在でもブータンのいたる所で見ることができる。



写真4

小玉みさをさん絵手紙作品紹介

Part 6



ここは桃源郷

石を置いた屋根、赤い実をつけた

りんごの木。草を食む牛。

ブムタンのウラ村

村長さんのお宅で昼食をごちそうになります。

家で採れた大根、

カブ、ジャガイモ等

心からのおもてなし。

どのお料理もとっても

美味しく感謝です。

かまどの熱で台所は

ぽかぽか。心もぽかぽか。

この家は十三人の

大家族。質素だけれど

暖かくて幸せが満ちて

おりました。

小玉みさを先生は、先の第5次ブータン訪問団員として、中央ブータンにあるウラ村を訪れました。

ブータンミュージアムで絵てがみ教室の講師をされています。

(毎月第1土曜日 午前10時より)

ブータンミュージアムを運営する NPO 法人 幸福の国 ついに、仮認定 NPO 法人へ

平成28年3月18日付でブータンミュージアムを運営する NPO 法人幸福の国は、仮認定 NPO 法人として県内で4番目（認定2つ、仮認定2つ）の決定を得ました。今後3年間、仮認定の NPO 法人として認められます。この場合、同法人への寄付者に対する税制優遇措置が認められます。具体的にどのようなメリットがあるのでしょうか。簡単に申し上げますと、「寄付者は寄付控除の対象になりますよ！所得税が大幅にカットできますよ！」ということになります。これを契機に、私たちの活動に対し、これまで以上のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。私たちは、3年後に正式な認定 NPO 法人への昇格を目指し、NPO 法人としてのミッション（使命）をさらに吟味し、真に幸福な社会の構築に向けた学習会や意識啓発などの公益活動を大いに進めてまいりたいと考えています。

《仮認定の場合の税制優遇》

- 個人が仮認定 NPO 法人に寄付した場合に受けられる寄付金控除
(所得控除あるいは税額控除)
- 法人が仮認定 NPO 法人に寄付した場合に認められる損金算入枠の拡大

みんなのコーナー 原稿募集のお知らせ

ブータンミュージアム通信では、皆様からの原稿を募集しております。幸せについて日頃感じていること、思っていることやブータン王国に関して思うこと等を400字～800字以内でお寄せ下さい。エッセイ、短歌、俳句のかたちでも結構です。ペンネームでの掲載もOKです。メールでご応募の場合、件名に「みんなのコーナー」と記してください。みなさまのご応募お待ちしております！

Email : info@bhutan-npo.asia

T E L : 0776-22-0011 F A X : 0776-22-0010

ブータンミュージアム通信 編集局

ブータンミュージアム 活動記録

5月8日

絵手紙教室 (10:00 ~ 12:00) ハピネス・コンサート (14:00 ~ 16:00)
 プロスピュートによるコンサート「ミュージケーション 音安心栖 (オアシス)」
 藤島中学校の生徒が自主的に集めた文房具の贈呈式

第6次訪ブータン団 ブータンに出発

自主映画上映会 ハッピー (10:00 ~)、幸せの経済学 (13:30 ~)

第6次訪ブータン団 ブータンより帰国

B M 定例会議 (13:30 ~ 15:00)

6月5日

絵手紙教室 (10:00 ~ 12:00) ハピネス・コンサート (12:30 ~ 16:00)

プロスピュートによるコンサート「ミュージケーション 音安心栖 (オアシス)」

歌声広場

明新小学校 校外学習来館

東郷小学校 校外学習来館

自主映画上映会 ハッピー (10:00 ~)、幸せの経済学 (13:30 ~)

B M 定例会議 (10:30 ~ 11:30)

森のめぐみ (坂井市) で出張歌声広場

福井県山岳連盟 記念講演会会場 (ハピリン) にパネル出展

7月2日

絵手紙教室 (10:00 ~ 12:00) ハピネス・コンサート (12:30 ~ 16:00)

プロスピュートによるコンサート「ミュージケーション 音安心栖 (オアシス)」

歌声広場

自主映画上映会 ハッピー (10:00 ~)、幸せの経済学 (13:30 ~)

北國銀行福井支店にパネル出展 (22日まで)

藤島中学校において、第6次訪ブータン団帰国報告会 (13:10 ~)

自主映画上映会 ハッピー (10:00 ~)、幸せの経済学 (13:30 ~)

B M 定例会議 (13:30 ~ 15:00)

7日

10日

15日

19日

28日

14日

16日

19日

25日

26日

3日

11日

13日

17日

23日



Activities schedule

これからの活動予定

22日 (土)	16日 (日)	2日 (日)	10月1日 (土)	25日 (日)	24日 (土)	18日 (日)	4日 (日)	9月3日 (土)	27日 (土)	21日 (日)	7日 (日)	6日 (土)	8月1日 (月)
B M定例会議 (13:30~)	自主映画上映会 ハッピー (10:00~)、幸せの経済学 (13:30~)	自主映画上映会 ハッピー (10:00~)、幸せの経済学 (13:30~)	絵手紙教室 (10:00~12:00) ハピネスコンサート (12:30~16:00) (すべて無料)	「ブータンを知る講座 (13:00~)	「ブータンを知る講座 (13:00~)	自主映画上映会 ハッピー (10:00~)、幸せの経済学 (13:30~)	自主映画上映会 ハッピー (10:00~)、幸せの経済学 (13:30~)	ハピネスコンサート発表会 (12:30~17:00) (すべて無料)	B M定例会議 (13:30~)	自主映画上映会 ハッピー (10:00~)、幸せの経済学 (13:30~)	自主映画上映会 ハッピー (10:00~)、幸せの経済学 (13:30~)	絵手紙教室 (10:00~12:00) (無料)	ブータンミュージアム通信14号発行

「ブータンの外のブータン」講師 月原敏弘氏



アジアの 村を歩く

マダガスカル 紙工房



地理学的には、この島はアフリカの一部でも、この島に渡来した人たちの多くは東南アジア島嶼域の出自と考えられている

写真・文 松田宗一
(福井県大野市在住)

起源は「コーラン」の紙

木の皮の繊維を煮込む

手漉きの紙は和紙に似て

しおりノートカード
封筒





売店に並ぶ紙製品



子供たちは、子守をしながら
母の帰りを待つ

なま花は色鮮やか、素朴なデザイン
黙々と働くこの国の女性たちの
勤勉さをまたも実感



編集後記



私は、ブータンミュージアムでボランティアを始めて1年程たちますが、この間に変わったことが一つあります。それは、ブータンについてよく調べるようになったことです。

私は、海外旅行が好きで2、3年に一度は出かけるのですが、ブータンについては、国王夫妻が日本を訪れたことや、国民が幸せに感じている割合が世界一高いということしか知りませんでした。それが徐々に自分からブータンのことを調べるようになり、まわりの友人たちとブータンのことについて話す機会も多くなり、よくブータンのことについて聞かれるようにもなりました。まず聞かれるのが、「ブータンって、どこにあるの？」ということでした。次によく聞かれるのが「ブータンの人は、何語を話すの？」ということです。答えは、「ゾンカと英語」なんです。ブータンの教育はほとんど英語で行われていますので、日本も取り入れた方がいいかもしれませんね。

ところで、今年10月からは現在開催中の「幸せのかたち」展に代わって新しい企画展を開催予定です。内容は、ブータンの民話・民謡・伝承・ことわざについてです。私は下準備でブータンのことわざについて調べていますが、調べていくうちに日本とは感性が違うことがわかります。一つ例をあげると、「善なる道は易い。だが、悪しき道はつねに険しい」というもの。これはブータン人では誰もが知っているような有名なことわざで、『いい心を持ち、物事の道理に基づいたきちんとした考え方をしていれば、道は自然と開けるし、自分を助けてくれる人やいい環境と出会うことができます。しかし、心根が悪ければいい出会いもないし、壁にぶつかってしまう』ということのようです。日本ならきっと逆の言い回しかも。10月からの企画展をお楽しみに。

(近藤 正隆)

【発行日】2016年8月1日

【発行元】

仮認定特定非営利活動法人 **幸福の国**

〒910-0005 福井県福井市大手3-15-12

ブータンミュージアム内

TEL.0776-22-0011 FAX.0776-22-0010

ホームページ <http://bhutan-npo.asia/>

Eメール info@bhutan-npo.asia

ブータンミュージアム

〔定休日〕毎週月曜日〔開館時間〕AM 11:00～PM 5:00



J R 福井駅から徒歩約10分